

令和6年度 基本施策評価シート

作成日 令和6年6月12日

基 本 施 策	A3	国際性を豊かにします	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	市民が		文化の違いを理解し、世界の人と活発に交流している。
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			59ページ
基本施策主管課名	国際課	関 係 課 名	

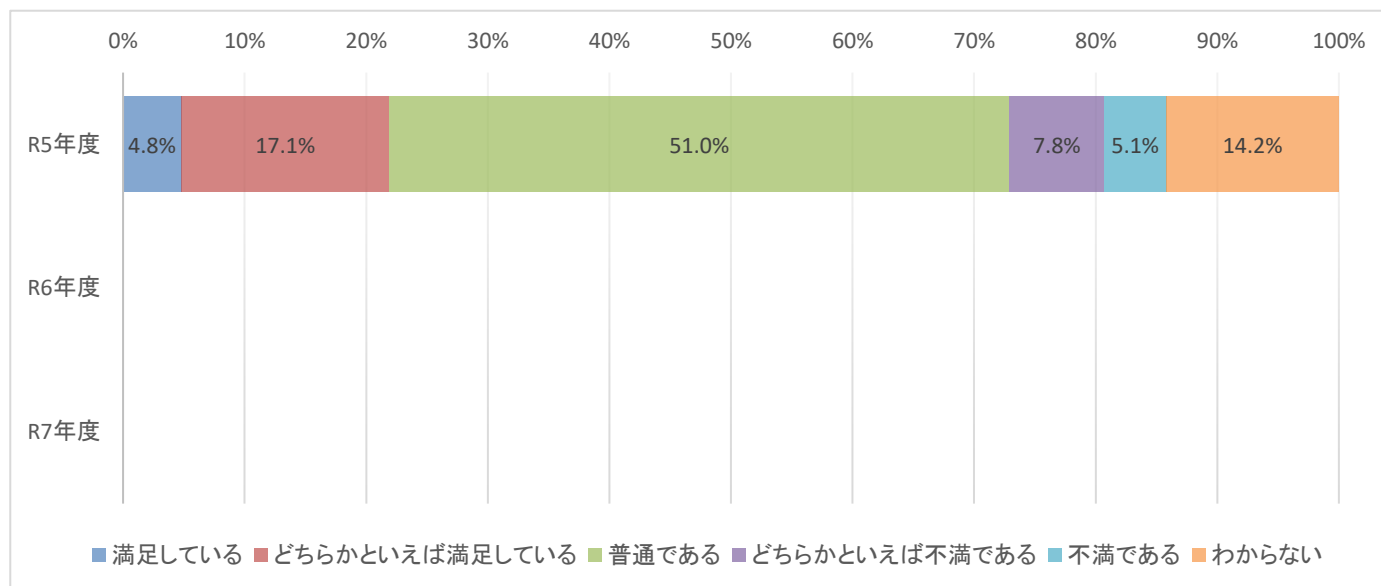
基本施策の総合評価

総括	●基本施策の成果指標である「国際交流イベント・国際理解に係る講座への参加者数」は、3,251人（令和5年度実績）で前年度比約45.5%増となっているものの、2025年度（令和7年度）の目指す姿である4,060人を下回っており、基準値（R元年度）まで回復していないが、令和3年度以降順調に推移している。 ●国際交流イベントや国際理解に係る講座への参加者数は増加傾向にあり、市民が文化の違いなどを理解する機会を提供できている。国際交流・国際理解の機会は日常生活でも増えてきており、成果指標の目標値の達成に向け、今後も現在の取組みを推進する。 以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。
A3-1	●国際理解に係る講座や交流イベントの開催について、市内小中学校に加え市内児童クラブへの案内や、SNS等を通じた周知を行う。 ●生徒の英語力向上については、市内の小中学校に配置したALTの効果的な活用を図るため、ALT指導専門員の派遣やALT研修会を実施し、ALTの指導力向上を図る。また、教師が小中9年間の英語教育研修会や指導力向上研修会で学んだ内容を、授業実践に落とし込むことができるように優れた授業実践を共有し、英語科の授業改善を進める。
A3-2	●日本語ボランティアの研修会やセミナーの開催を通じ、多くの人が「やさしい日本語」に触れる機会を増やすことで「やさしい日本語」の普及に努めるとともに、出入国在留管理庁が実施している「行政窓口等に対する通訳支援」の活用などにより、外国人住民が暮らしやすい環境づくりを進める。 ●継続して参加する国際ボランティアの増加を図るため、年度途中で研修を兼ねた意見交換会等を実施し、ボランティアが活動しやすい環境づくりに努める。また、「やさしい日本語」について、引き続き職員及び市民を対象とした研修を実施し普及に努める。
A3-3	●留学生の県内事業所への就職率増に向けて、長崎留学生支援センターを中心として、産学官の加盟団体や企業と連携した新たな取り組み（留学生向けの企業見学会やインターンシップ・プログラム）を推進する。 ●国際ボランティアなど様々な取組を通して、留学生と市民が交流する機会の創出に努めるとともに、国際交流イベント（ちゃんぽんフェスタ）や平和祈念式典など様々な機会での積極的な働きかけを行い留学生との協働を進める。

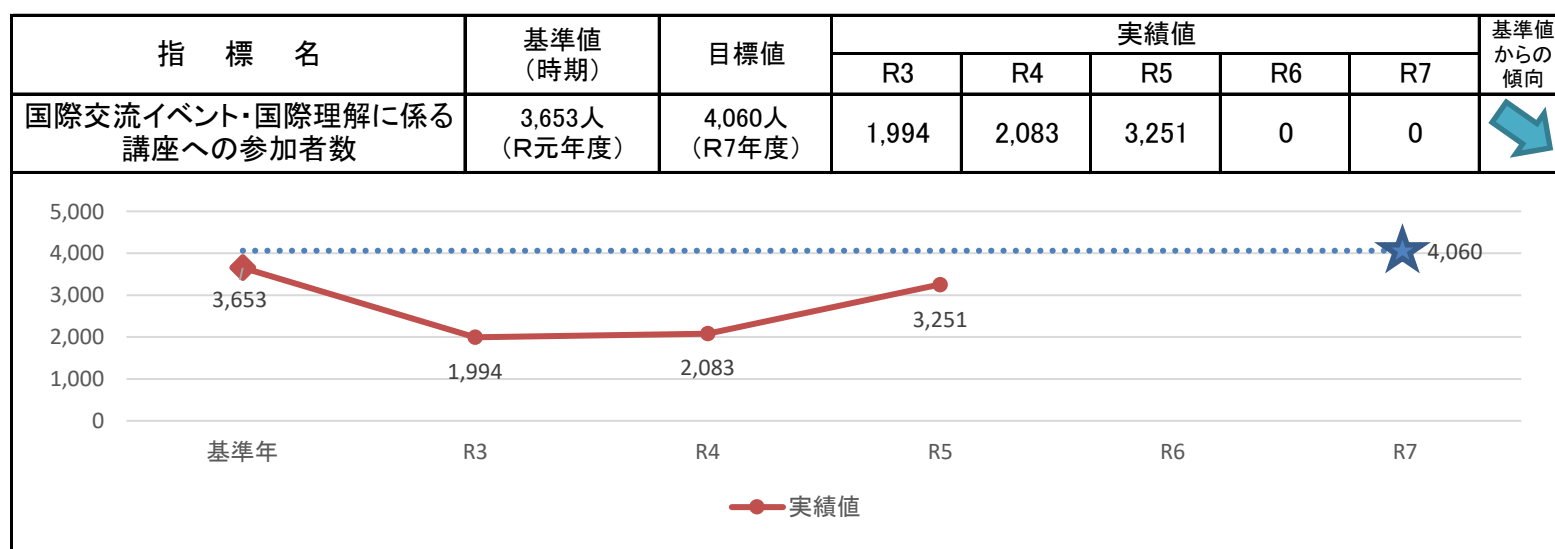
二次評価（施策評価会議による評価）

●	【A3-1】 めざす姿（定量・定性）へのつながりを意識した記載を検討すること。
●	【A3-1】 成果指標「国際交流イベント・国際理解に係る講座の実施回数」については、実施回数も大事だが、参加者を増やし、国際理解が高まる市民が増えることを意識して取り組んでほしい。
●	【A3-2】 「今後の取組方針」②多言語による情報提供の充実の「行政窓口等に対する通訳支援」について、「問題点とその要因」とのつながりがわかるように記具体的に載すること。
●	【A3-2】【A3-3】 外国人住民や外国人留学生へのアンケート調査等により分析を行いながら、働き手不足の解消や観光分野などでの多言語への対応など部局間連携、施策間連携を意識した施策の推進に努めること。

基本施策に対する市民満足度調査結果



成果指標



年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
・国際交流を実施した小・中学校数の増(23校の増) ・日本語ボランティアによる外国人住民のための初級日本語講座の受講者数の増(791人の増) ・外国人留学生数の増(461人の増) ・外国人留学生の公共施設入場料免除利用者数の増(2,132人の増)	・国際交流を実施した小・中学校数の増(36校の増) ・国際ボランティアの登録者数の増(109人の増) ・外国人留学生数の増(177人の増) ・外国人留学生の公共施設入場料免除利用者数の増(1,104人の増) ・ブラジル・サントス市に姉妹都市提携50周年を記念した訪問団を派遣した。		

令和6年度 個別施策評価シート

個 別 施 策	A3-1	国際交流・国際理解の機会の充実を図ります	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	市民が		国際交流を体験し、国際的な理解を高めている。
個別施策主管課名	国際課		

成果

① 国際交流の機会と内容の充実

●国際交流イベント「ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ」について、これまでに実績のなかった出身国の留学生によるブース出展など市民が国際交流を体験する機会と内容の充実が図られた。また、国際理解に係る講座が77回(令和4年度)から102回へ増したことにより、令和4年度(2,083人)を上回る3,032人が参加し、多くの市民が国際交流を体験する機会を得ることができ、外国に対する関心・理解を深めることができた。

② 姉妹都市等の情報提供と市民交流の支援等

●姉妹都市等との交流について、ブラジル・サントス市に姉妹都市提携50周年を記念した訪問団を派遣し、サントス市との姉妹都市提携50周年の記念行事やブラジル長崎県人会創立60周年記念式典に出席し、現地で龍踊を披露しているメンバーと意見交換を行うなどしたほか、ポルトガル・ポルト市からは姉妹都市提携45周年を記念したポルト市長を団長とする訪問団が来崎し、両都市とも互いに顔を合わせた交流を行うことで、姉妹都市間の結びつきをより一層深めることができた。

子どもゆめ体験事業において、市内の中学生(15人)をシーボルト来日200周年を記念してオランダ・ライデン市、ドイツ・ヴュルツブルク市へ派遣し、定例記者会見やSNSなど様々な媒体を活用し効果的に発信し、市民とタイムリーな情報共有を行った。また、ベトナム・ホイアン市と長崎市の御朱印船に係る団体同士の、オンラインによる市民間交流を支援したことで、市民レベルでの関係強化や交流の促進が図られた。

③ 国際的に活躍できる人材の育成

●子どもゆめ体験事業は、シーボルト来日200周年を記念し、姉妹都市オランダ・ライデン市と市民友好都市ドイツ・ヴュルツブルク市へ派遣した。事前研修の回数を2回から3回へ増やし、姉妹都市等について学ぶ内容を充実させるとともに、派遣後に行う英語での成果発表の機会を確保したことで事業効果を高め、国際的に活躍できる人材の育成に寄与した。

【G1-1に再掲】

●国際理解教育の充実のため、「あじさいEnglish Day」や「あじさいEnglish Speech Contest」などのイベントやコンテストを実施した。市内の小中学校にALT(36名)を配置したりすることにより、英語を用いたコミュニケーションの機会が増え、児童生徒の英語力向上に寄与した。小中9年間の英語教育研修会や学力向上研修会で提案された授業改善のヒントを各学校が実践したことで、英語力の向上が図られた。(英検3級以上及びそれ相当の英語力を有している中3の割合が令和4年度の53.0%から53.6%に上昇した。)

問題点とその要因

① 国際交流の機会と内容の充実

●国際理解に係る講座の参加者数は前年度から増加しているものの、コロナ禍前の水準までは回復しておらず、周知が十分でなかったため受講を希望する団体が少なく、参加者数が伸び悩んでいる。

② 姉妹都市等の情報提供と市民交流の支援等

●姉妹都市等との交流について、ホームページやフェイスブックなどで発信しているが、成果や効果を交流に携わった人以外が実感することが難しく、取組み内容が広く市民に伝わっていない。

③ 国際的に活躍できる人材の育成

●子どもゆめ体験事業について、国際感覚豊かな子どもを増やすため関係部局と連携して取り組んでいるが十分でなく、長崎ならではの原爆や平和について学び、英語で伝える力を高めることや学びを深める取組みができていない。

【G1-1に再掲】

●中学生の英語力については、英検3級及びそれ相当の英語力を有している生徒が増えているものの、県が設定している目標(英検3級及びそれ相当の英語力を有している生徒の割合60%)には届いていない。令和5年度は、全国学力学習状況調査(英語科)が4年ぶりに行われた。長崎市は長崎県の平均を2.0ポイント上回っていたが、全国平均は3.6ポイント下回っていた。

今後の取組方針

① 国際交流の機会と内容の充実

●国際理解に係る講座や交流イベントの開催について、市内小中学校に加え市内児童クラブへの案内や、SNS等を通じた周知を行う。

② 姉妹都市等の情報提供と市民交流の支援等

●周年事業等様々な機会をとらえ姉妹都市等との友好・親善を目的とした取り組みを、ホームページやフェイスブックなどを通して市民同士の交流を発信する。また、市民レベルでの主体的な国際交流について支援等を行うことで、姉妹都市等との裾野の広い関係強化や交流促進につなげる。

③ 国際的に活躍できる人材の育成

●子どもゆめ体験事業について、新たな研修プログラムとして、JICAなどの国際機関と連携し、多文化共生や国際協力等に関する講座を開催して研修を行うほか、学校教育課が実施する「中学生平和Englishリーダー育成事業」と連携し取り組むことで、国際感覚豊かな子どもの育成を図る。

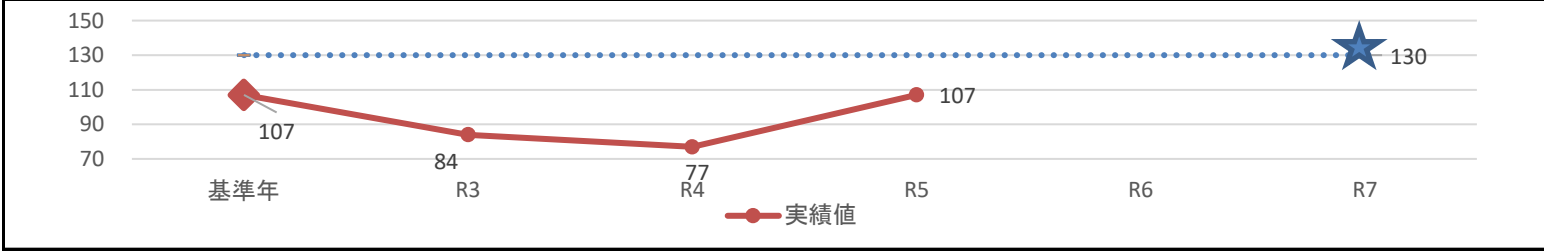
●中学生が英語で意見を述べる「あじさいEnglish Speech Contest」を通して、英語で自分の考えや思いを発信できる生徒を育成する。加えて、「あじさいグローバルリーダー研修会」を実施し、「ふるさと長崎の国際理解教育を推進するリーダー」を育成する。

【G1-1に再掲】

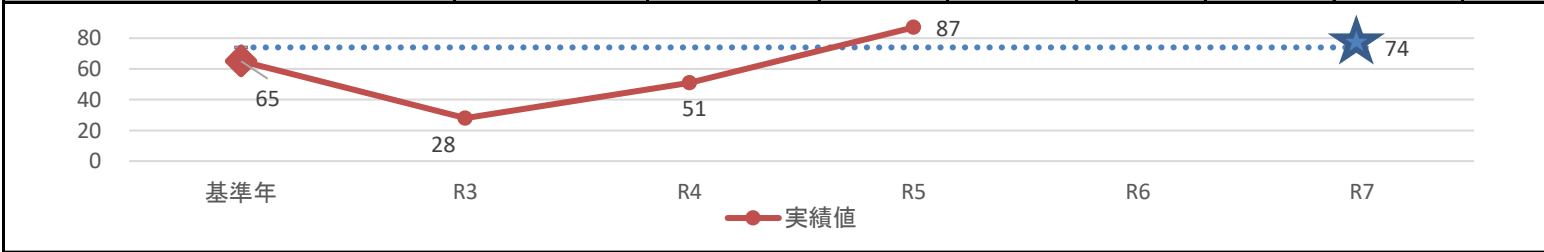
●生徒の英語力向上については、市内の小中学校に配置したALTの効果的な活用を図るため、ALT指導専門員の派遣やALT研修会を実施し、ALTの指導力向上を図る。また、教師が小中9年間の英語教育研修会や指導力向上研修会で学んだ内容を、授業実践に落とし込むことができるように優れた授業実践を共有し、英語科の授業改善を進める。

成 果 指 標

指 標 名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
国際交流イベント・国際理解に係る講座の実施回数	107回 (R元年度)	130回 (R7年度)	84	77	107	0	0	➡



指 標 名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
国際交流を実施した小・中学校数 (ALTとの共同授業を除く)	65校 (H28年度)	74校 (R7年度)	28	51	87	0	0	➡



施策を推進する主な事業

1

事業名 担当課	国際交流員招致費		国際課	
成果指標	国際交流イベント・国際理解に係る講座の実施回数		 【国際理解講座(韓国)】	
目標値	120回			
実績値	102回			
達成率	85.0%			
成果指標・ 目標値の説明	国際交流イベントや国際理解講座(小中学生向けの外国文化体験出前講座含む。)を開催することで市民の国際理解・国際交流のきっかけづくりができると考えられるため、実施回数を成果指標とした。			
事業目的	国際交流員を任用し、通訳・翻訳や国際交流に関する業務を行い、本市の国際化を推進する。			
事業概要	英語、韓国語、中国語の国際交流員を任用し、通訳・翻訳、国際交流にかかる業務を通して国際化を推進するとともに、外国人住民の支援や市民の国際意識の向上を図る。			
取組実績	・翻訳、通訳 ・外国人住民のサポート ・国際理解講座等の啓発活動 ・国際交流、観光等のイベント対応			
	決算(見込)額	12,452,852		円

2	事業名 担当課	国際理解教育推進費		学校教育課	
	成果指標	国際交流調査			
	目標値	74校			
	実績値	87校			
	達成率	117.6%			
	成果指標・ 目標値の説明	小中学校105校中、7割にあたる74校が国際交流を実施することを目標とした。			
	事業目的	国際化が進むこれからの時代にふさわしく、自ら進んで交わろうとする国際感覚豊かな子どもの育成を図るために、ALTと外部指導者を全市立小中学校に派遣し、児童生徒が生徒の英語に直接接し、英語に対する興味を高めるとともに、国際感覚を養い、国際理解教育の推進を図る。			
	事業概要	・ALT(36人)及びALT指導専門員(1人)や外部指導者が、小学校のハローイングリッシュ活動や外国語活動、中学校英語科の授業で担任と協働での授業を行い、小中連携した9年間の国際理解教育を推進する。 ・国際感覚の醸成のために、グラバー園や長崎歴史文化博物館等の施設を利用し、外国人と児童生徒が触れ合う交流イベントを開催する。 ・中学生英語スピーチコンテストを実施し、ふるさと長崎について発信する機会を通して、英語で自分の考えやふるさとへの思いを伝える態度や表現力を育成する。			
取組実績	小・中学校教諭やALTを対象とした研修会を実施し、指導力の向上を図ることができた。また、英語研究部会と協力し、学力向上研修会の際に、研究推進員が作成した指導案やワークシートを提供し、授業改善を進める機会とした。さらに、文科省教科調査官を招聘した研修会を実施し、全国学力学習状況調査やデジタル教科書を活用した実践的な指導の在り方を学ぶ機会とした。				
	決算(見込)額		197,963,960	円	

令和6年度 個別施策評価シート

個 別 施 策	A3-2	外国人住民が暮らしやすい環境づくりを進めます	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	外国人住民が		暮らしやすい環境になっている。
個別施策主管課名	国際課		

成果

① 多言語による情報提供の充実

●行政手続きや暮らしの情報、災害に備えるための情報などを4か国語(英語・中国語・韓国語・日本語)で掲載した冊子「外国人住民のための生活ガイド」を外国人転入者に配布し、電子書籍として公開した。また、広報ながさきの掲載内容のうち、生活に関する情報をSNSにより多言語で発信した。

また、外国人にもわかりやすく表現された日本語「やさしい日本語」を活用した国際課ホームページ上の「生活に役立つ情報」欄は、閲覧回数が令和4年度は10,223回であったものが、令和5年度は10,371回に増加しており、外国人住民が各種イベント等の情報を含め適切に情報を得やすくなることで、安心して生活できる環境づくりにつながった。

長崎県国際交流協会が設置している「長崎県外国人相談窓口」について、外国人転入時等の機会に周知を行っており、令和4年度は203件であった利用実績が令和5年度には249件へ増加している。

② 生活支援と市民との交流機会の充実

●国際ボランティアによる、外国人住民向けの生活に必要な初級日本語講座については、受講者へアンケートを行ったところ、実施回数を減らしても十分な学習効果が得られると見込まれたことから、令和4年度の75回から令和5年度に60回へ変更し、利用者数は1,163人から1,037人となったが、日本語ボランティア登録者数は79人から144人となり、初級日本語を学ぶ環境が充実した。

「やさしい日本語」の研修対象者を、令和5年度は職員のみであったものを市民も参加できるよう拡大し、令和4年度は19人であった参加者数が令和5年度は41人に増加し、やさしい日本語の普及を図った。

問題点とその要因

① 多言語による情報提供の充実

●行政手続きや暮らしの情報、災害に備えるための情報などは、現在、4か国語(英語・中国語・韓国語・日本語)で提供しているが、外国人住民の国籍や文化の多様化が進んでおり、様々な言語での対応が必要となっているが、全ての言語への対応は難しい。

② 生活支援と市民との交流機会の充実

●初級日本語講座の国際ボランティア登録者数は、令和4年度の79人から令和5年度の144人と大きく増加したものの、継続して参加するボランティアはあまり増えていない。また、「やさしい日本語」は、市民が外国人住民と接する機会に、有効なコミュニケーションの手段であることを幅広く普及させることができていない。

今後の取組方針

① 多言語による情報提供の充実

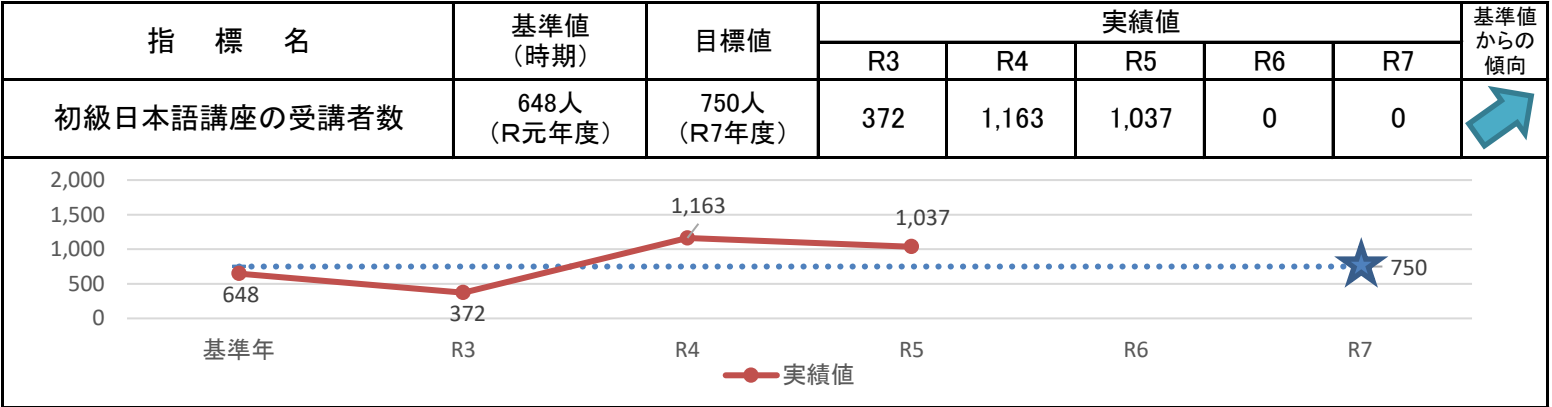
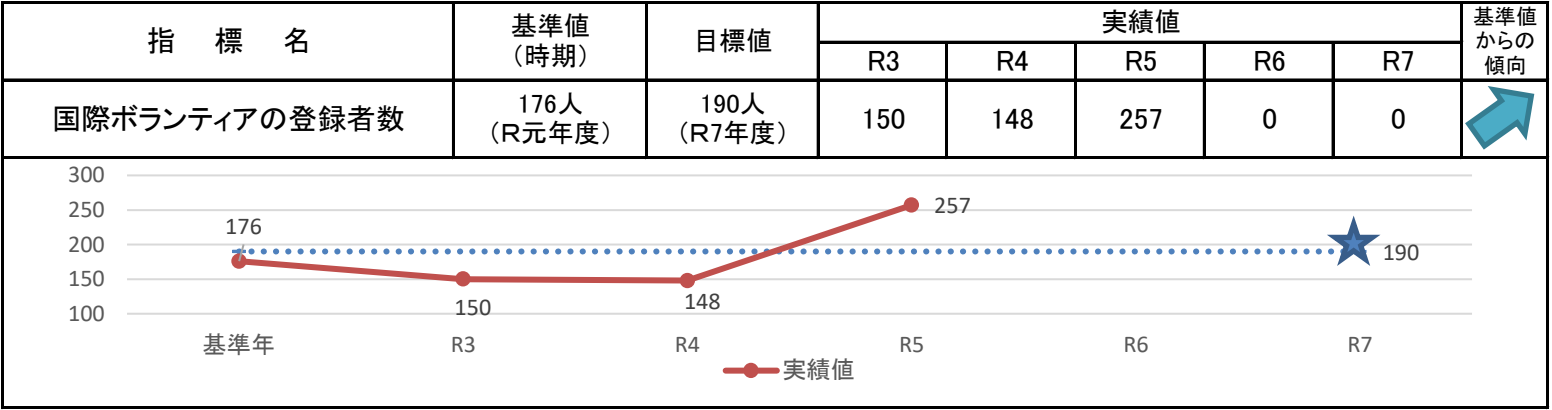
継続 ●4か国語による情報提供を継続するとともに、日本語ボランティアの研修会やセミナーの開催を通じ、多くの人が「やさしい日本語」に触れる機会を増やすことで、「やさしい日本語」の普及に努める。

継続 ●出入国在留管理庁が実施している20か国語に対応した電話通訳サービス「行政窓口等に対する通訳支援」を活用するなど、外国人住民が暮らしやすい環境づくりを進める。

② 生活支援と市民との交流機会の充実

継続 ●継続して参加する国際ボランティアの増加を図るため、年度途中で研修を兼ねた意見交換会等を実施し、ボランティアが活動しやすい環境づくりに努める。また、「やさしい日本語」について、引き続き民間と連携した取組みを進めるとともに、職員及び市民を対象とした研修を実施し普及に努める。

成果指標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	多文化共生推進費		国際課	
	成果指標	国際ボランティアの登録者数			
	目標値	184人			
	実績値	257人			
	達成率	139.7%			
	成果指標・ 目標値の説明	国際ボランティアの登録者数。共生のための支援や相互理解に主体的に取り組む市民が増えることで、ボランティア登録者が増えると考えられるため、成果指標とした。 平成28年度から令和2年度の5年間の最高値184人を目標値とした。			
	事業目的	外国人住民の生活利便性を向上させるため、行政情報の提供や日本語講座などを実施する。			
	事業概要	・行政等の情報提供 ・外国人住民のための日本語講座、通訳の実施			
取組実績	・外国人住民の生活ガイドや国際課ホームページへの「やさしい日本語」の活用や多言語による情報発信 ・通訳ボランティアによる業務支援 ・日本語ボランティアによる初級日本語講座の実施				
	決算(見込)額		1,575,380	円	

令和6年度 個別施策評価シート

個 別 施 策	A3-3	留学先としての質の向上を図り、魅力を高めます	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	外国人留学生が		長崎留学の魅力を見出すとともに、充実した留学生活を送っている。
個別施策主管課名	国際課		

成果

① 産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み

●引き続き長崎留学生支援センター(大学・関係自治体・経済団体等で組織)と協力し、国内外の日本語学校への長崎留学ガイドの送付やデータ版による募集支援を行うことで、長崎への留学の魅力を発信した。加えて同センターと連携し、ホームページを通じたアルバイト紹介による生活支援や、オンラインによるビジネス日本語セミナー、留学生活用セミナーなどの就職支援、同窓会ネットワークを活用した交流支援など、各種支援を行ったことにより、外国人留学生数(在留資格が「留学」の市内在住者)は前年比177人増の1,334人となった。

また、長崎留学生支援センターは令和5年度から、文部科学省からの3か年の委託事業として留学生就職促進プログラムに取り組んでおり、新たにインターンシップ・プログラムの手法を検討するとともに、産学官の関係団体へ事業概要の説明を行った。

② 外国人留学生との協働

●長崎留学生支援センターを中心に、中国やベトナムの海外長崎留学生同窓会を通じて、現地の人々に長崎の大学の状況や生活に必要な情報はじめ、長崎留学の魅力を発信したことにより、長崎留学の価値を高めることにつながった。また、留学生に平和祈念式典の大使随行等の協力をしてもらうとともに、国際交流イベント(ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ)において、新たに1組の留学生団体と協働し、お菓子作り体験ブースの出展を行った。

問題点とその要因

① 産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み

●長崎留学生支援センターが中心となり、募集・生活・就職、交流支援に取り組んだことなどにより外国人留学生は増加しているが、企業側と就職を希望する留学生との間に、日本語でのコミュニケーションへの不安、定着率が低く短期間で離職する、留学生への地元企業のPRが十分でないなど、地元企業への就職につなげる取組みに課題が多く、長崎県内の大学を卒業した留学生の県内就職率は約16.6%に留まっている。

② 外国人留学生との協働

●外国人留学生の増加や国籍の多様化に伴い、協働の機会の広がりや充実が期待できるが、そのような機会が少なく、外国人留学生が自らの力を活かし市民とコミュニケーションをとる場が少ない。

今後の取組方針

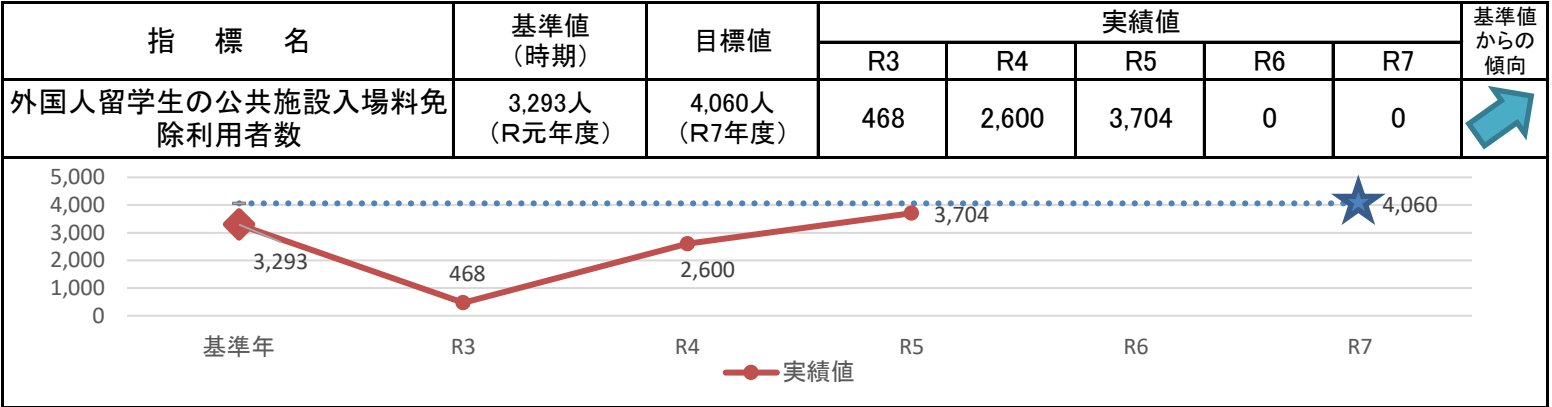
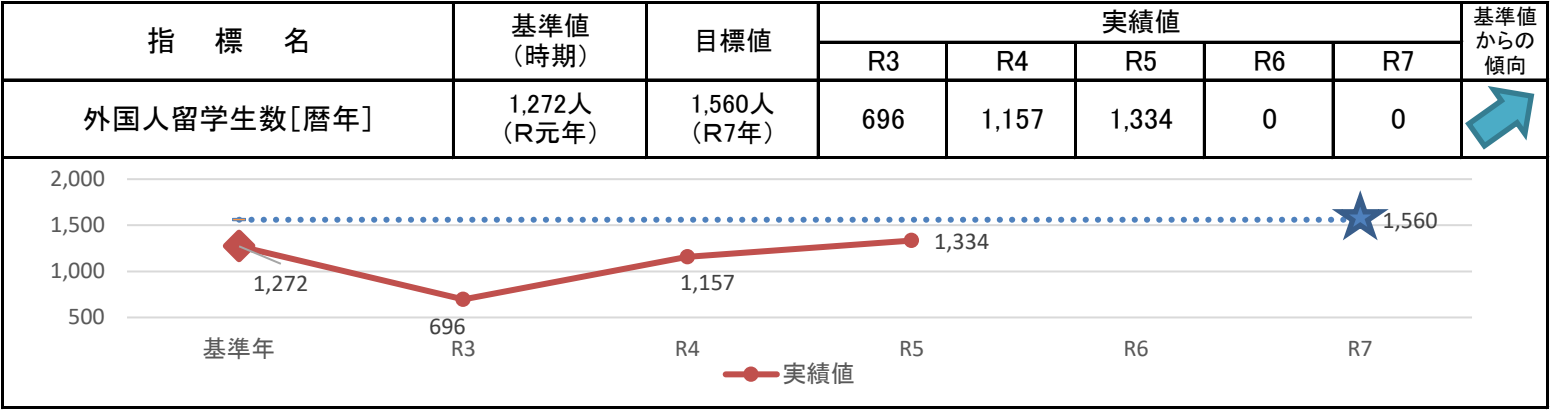
① 産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み

継続 ●留学生の県内事業所への就職率増に向けて、長崎留学生支援センターを中心として、産学官の加盟団体や企業と連携した新たな取組み(留学生向けの企業見学会やインターンシップ・プログラム)を推進する。

② 外国人留学生との協働

継続 ●国際ボランティアなど様々な取組みを通して、留学生と市民が交流する機会の創出に努めるとともに、国際交流イベント(ちゃんぽんフェスタ)や平和祈念式典など様々な機会での積極的な働きかけを行い留学生との協働を進める。

成果指標



施策を推進する主な事業

1

事業名 担当課	留学生支援・連携費		国際課	
成果指標	外国人留学生数		 【長崎留学生支援センター (留学生と企業の交流会)】	
目標値	1,444人			
実績値	1,334人			
達成率	92.4%			
成果指標・ 目標値の説明	留学地としての魅力が高まるよう環境が整うことで、留学生数が増加すると考えられるため、住民登録における在留資格が留学の者の数を成果指標とした。			
事業目的	産学官が一体となった「長崎留学生支援センター」を中心に、留学生の各種支援や留学生に長崎の歴史・文化を体験してもらうなど、留学生の満足度を高め、留学生数を増加させる。			
事業概要	・募集、生活、就職などの各種支援 ・留学生に長崎について知ってもらうための取り組み ・海外への長崎留学の情報発信			
取組実績	・長崎留学生支援センターを中心とした産官学が一体となった支援 ・市有施設の入館料等免除			
	決算(見込)額	1,197,000		円